



みんな楽しく みんなでもチャレンジ みんな笑顔の

みんなのこ

南有馬小学校だより No.15

令和8年8月9日(日)
南島原市立南有馬小学校
校長 大草 修三

あの日から81年～長崎原爆の日～

今日は、夏休み1回目の登校日でした。久しぶりに元気な子どもたちの姿を見ることができました。

7月28日に熊本地震がありました。南有馬地区では大きな被害もなかったようです。また、子どもたちの大きなけがや事件・事故もなく、夏休みの半分を終えることができたことに感謝します。

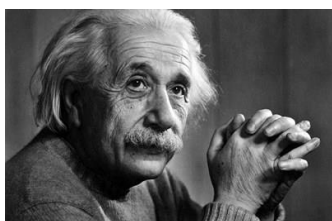
今日、8月9日は、長崎に原子爆弾が投下された日で、本校でも平和集会を行いました。各学年の人権・平和宣言の紹介、6

年生が総合的な学習の時間に「平和について考えよう」というテーマで学習したことについての発表、歌『折り鶴』の合唱など、平和についてしっかり考えることができました。ご家庭でも是非「平和」について語り合ってみられてはいかがでしょうか。

さて、夏休みも残り半分、宿題は早めに終わらせて、ゆとりをもって2学期を迎えることができるよう、ご家庭でも声かけをお願いいたします。



平和集会での話 ～大体こんなことを話しました～



みなさんは、この写真の人を知っていますか？この人は、ドイツ出身の科学者で、ノーベル物理学賞を受賞した、アインシュタインという人です。アインシュタインは、20世紀最大の物理学者、現代物理学の父とも言われています。アインシュタインは、「平和は力では保たれない。平和はただわかりあうことで達成できるのだ。」という言葉を残しています。

アインシュタインはアメリカが日本の広島と長崎に原子爆弾を落としたことを知ったとき、ものすごい衝撃を受けたそうです。なぜなら、自分の研究が原子爆弾の開発に影響を与えたと考えたからです。「自分があんな研究をしなければ…」と思ったかもしれません。だからこそ、このアインシュタインの言葉には重みがあると思います。

「わかりあう」ために大切なことは、まずは相手の心を大切にすることではないかと思います。「大切に」とは、相手がどのように感じているのか、どのようなことを思っているのかをわかろうと努力することではないでしょうか。そのためには、相手の声に耳を傾けることが大切です。

それは学級や学校、あるいは家族や友達の間でできることです。何かトラブルが起こった時、まずはお互いの考えや気持ちをしっかり伝え合い、相手の立場に立って考えることで、お互いにわかりあえる学級や学校、家庭が実現するのではないかと思います。

お互いのことがわかりあえると、喧嘩や争いがなくなります。世界平和もまずは身近なところから。一人一人の小さなことの積み重ねが、やがて「世界平和」という人類共通の願いを実現するのです。

ありがとうございます

毎日暑い日が続きます。久しく雨も降っていません。

そんな中、ほぼ毎日、G&Bの皆様が、運動場の芝生に水をかけてくださっています。おかげで、運動場の芝生も何とか緑色を保っています。おそらく、G&Bの散水がなければ、あっという間に枯れてしまうでしょう。

みなんまの子の自慢「芝生の運動場」は、多くの方々の支えによって今の状態を保っています。本当にありがとうございます。



ほんとタイム

事件は、7月27日（月）の昼下がりには起こりました。

その日、朝から1階東の男子トイレの床におしっこのようなものがあると報告がありました。実は数日前に職員から「何か動物のようなにおいがする」という報告も受けていました。もしかしたらハクビシンやアナグマといった動物が入り込んでいるかもしれないと職員と話していたのです。

そして、その日、用務員の さんから「給食室の倉庫の物が下に落ちていた」という情報が寄せられ、気分はすっかり『あ

ぶない刑事^{デカ}』の館ひろし（似てない!）、現場となった給食室の倉庫に潜入しました。確かに動物のにおいがしました。「何かいる」と思い、倉庫にある棚の中をのぞくと…、目と目が合ってしまいました。なんと、そこにいたのは白黒の猫。「猫だ!」と叫んだ瞬間、猫は身の危険を感じたのでしょうか、一目散に階段の踊り場へ駆け上り、さらに階段を駆け下って職員室方面へ逃走しまし

た。 さんの「きゃ〜あ〜」という悲鳴を聞いた職員が、職員室から出てきたときには、時すでに遅し。猫の姿はどこにも見当たらず、行方不明に。そのまま校舎の外に出ていけばいいけど、もし校舎内のどこかに逃げ込んでいけば大変なことになると思い、職員室にいる職員と1階から3階まで搜索をしましたが、猫は見つかりません。これは困った、何とかして猫の行方が分からないかと思案しました。

人はものを考える時は上を見るものなんですね。「う〜ん」とうなりながら視線を上の方に向けると、そこにあったのは防犯カメラの映像。「これだ!」とひらめきました。実は、つい最近、本校にも防犯カメラが設置されたのです。防犯カメラの録画映像を職員と一緒に確認してみると、映っているではありませんか!猫が職員室前の廊下を猛スピードで駆け抜ける後姿が。「猫は、まだ校舎の中にいる」と判断した私たちは、もう一度搜索活動を開始しました。

そして、いました!家庭科室の隅っこに。

先生と二人で何とか捕まえようとするのですが、猫もさるもの、大逃走が始まりました。家庭科室の中を逃げ回る、逃げ回る。とうとう捕まえるのは断念し、窓から逃がすことに作戦を切り替え、すべての窓を開け、窓の方に猫を追い込みました。猫は、熱中症になるのが怖かったのか、なかなか外に出ようとしませんでした。しばらくするとさすがに疲れたのか、窓から外へ飛び出し、一目散に中央玄関の方に走っていきました。「やばい!また校舎の中に入る。」と思ったのですが、さすが南小の職員。出入口をすべて閉めており、猫が入る隙間はありませんでした。一件落着、めでたし、めでたしでした。

それにしても、防犯カメラがこんな場面で役立つとは。とんだ真夏の猫騒動でした。

